

【特集】

学校地域応援団

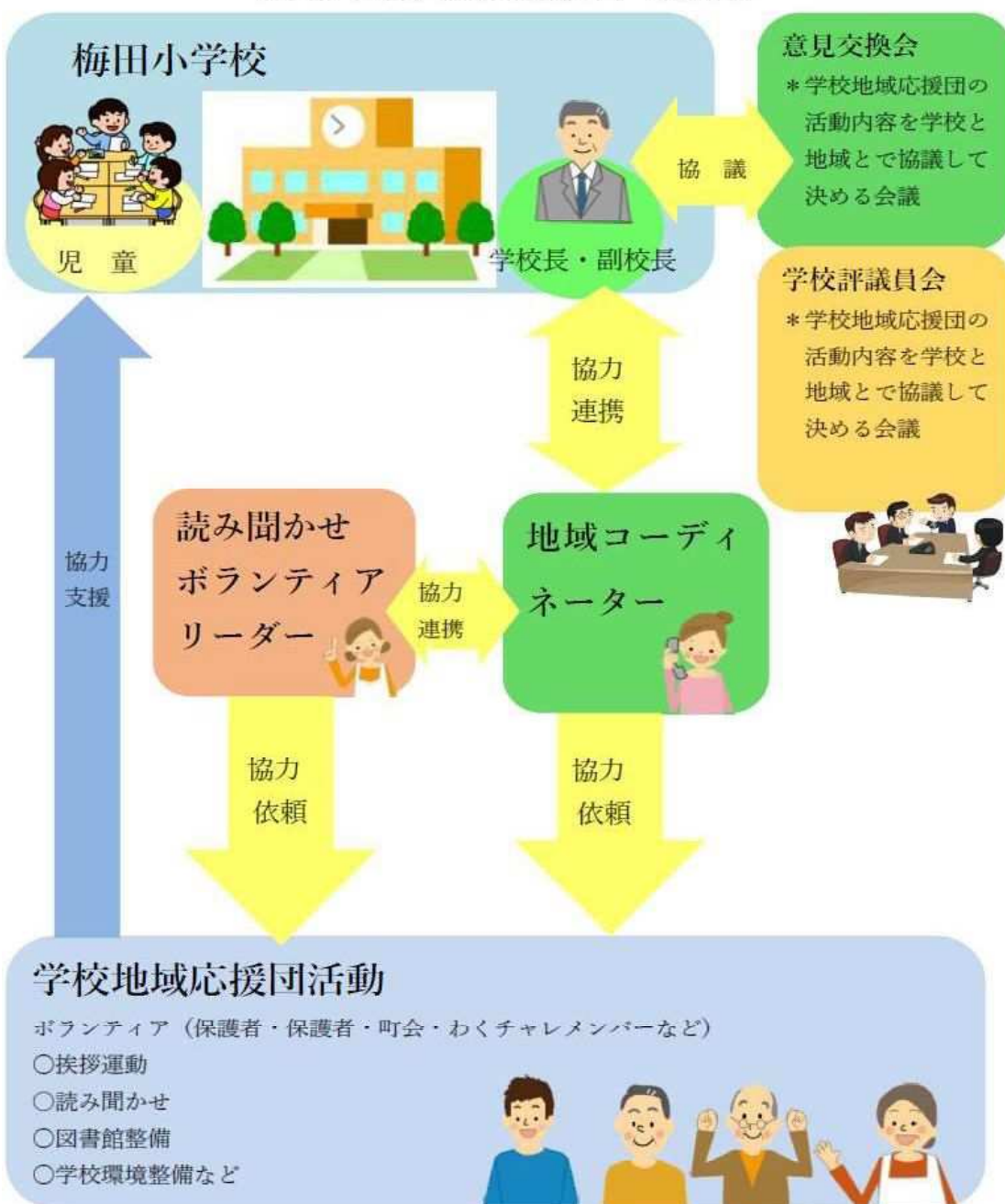
の活動紹介

梅田小学校

学級数 20 クラス
児童数 486 人
ボランティア数 25 人

実施体制

梅田小学校学校地域応援団 組織図



意見交換会＋学校評議員会（地域教育協議会）

梅田小学校では毎年1回開催される意見交換会と学校評議員会が地域教育協議会の役割を担っています。

意見交換会では地域コーディネーターや各活動のボランティア、教職員が参加して、応援団活動の際に気付いたことや活動に必要な道具に関することを議題に協議や情報交換を行い、学校評議員会では応援団活動に関する年度計画や活動実績などについて報告しています。

広報活動

梅田小学校学校地域応援団の広報誌である「うめだん」を年度当初に発行しており、学校やボランティア、新入生の保護者に配布しています。挨拶運動などの各応援団活動について写真付きで紹介すると共に、ボランティアの募集も行っており、希望者がすぐに連絡が取れるように地域コーディネーターの連絡先を掲載しています。

実際に、広報誌がきっかけの応募が複数あり、ボランティア数の増加に繋がっています。



↑ 梅田小学校学校地域応援団広報誌：「うめだん」

主な活動

梅田小学校では町会が学校の活動に協力的であり、子供たちのために積極的に支援や活動を行っています。また、活動の際には地域コーディネータに加えて、読み聞かせボランティアのリーダーも学校とボランティアとの調整役を担っており、各活動ごとに協力体制を構築しています。地域の方の多くが積極的に活動に参加し、挨拶運動や読み聞かせなどの活動を行っています。

挨拶運動

毎月4回、わくチャレメンバーや町会の方々が8名ほど参加し、20分ほど登校時の挨拶運動を実施しています。活動は西門と東門の2箇所に分かれて行い、ボランティア以外にも6年生の児童や教員が一緒に参加しています。

活動の際には、児童の顔を見ながら、一人ひとり声をかけることを意識すると同時に、交通安全対策として横断歩道での交通指導も行っており、児童は地域の人に見守られているという意識を持ちながら、安心して登校することができています。

ボランティアの方々には毎年、3月後半に1年間の活動スケジュールを配布し、広報誌で活動紹介を行い、ボランティアの募集をしています。

活動を通して、最初は声をかけても反応がなかった児童がしっかりと笑顔で挨拶をできるようになり、ボランティアの参加者も児童の笑顔に元気をもらっています。



挨拶運動ボランティア
の皆さん

図書ボランティア

児童が図書室を利用しやすい（行きたくなるような）雰囲気を作ろうとの思いから、図書室の飾りつけを1学期に2回ほど行っています。活動を行う際は、事前に地域コーディネーターがラインやメールで作成の日程を連絡しており、その連絡の中でどのような作品を作るかについても打ち合わせを行っています。当日は4～5人のボランティアで2時間ほど飾り付け用の作品を作成しています。

活動の結果、児童も作品を楽しみにしており、児童の図書室を利用する機会の増加に繋がっています。

今年度は、図書室以外にも感染症対策の啓発を兼ねた、児童に人気のアニメキャラを模した作品を展示した結果、とても好評です。



図書ボランティアの皆さんで
アイデアを出し合って作成
しています！



児童に大人気の感染症対
策の展示物！！

読み聞かせ

毎月1回、朝の授業開始前の時間（うめだタイム）を利用して、ボランティアが3名ほど参加して、15分程度の絵本の読み聞かせを行っています。活動の際には、読み聞かせボランティアのリーダーが対象の学年や本を教員と相談して決めています。

各回ごとに順番に学年を変えながら読み聞かせを行い、活動後には読み聞かせノートにて毎回の記録をつけることでボランティア同士で情報共有を行えるようにしています。

また、参加者は図書ボランティアと兼任している方が多く、地域コーディネーターと連携しながら活動を行っています。

環境整備

環境整備活動として農園や校庭の整備などが行われています。

基本的には夏場の週1回、農園の草むしり、土づくりを行うのですが、それ以外にもボランティアが自主的に農園整備や校庭整備などの活動を行っており、熱心な方が多いです。応援団設立当初から続いている活動で、「やれる時、やりたい時やる」をモットーに日々の活動を行っています。



環境整備ボランティアの皆さん

学校地域応援団の特徴

活動の特徴として、各自の自主性に任せて無理なく、好きなタイミングで参加できる体制が日々の継続的な活動に繋がっています。

また、地域コーディネーターや読み聞かせボランティアのリーダーを中心に地域や学校と気軽に情報共有や相談ができる体制も整っています。

児童への効果（学校の声）

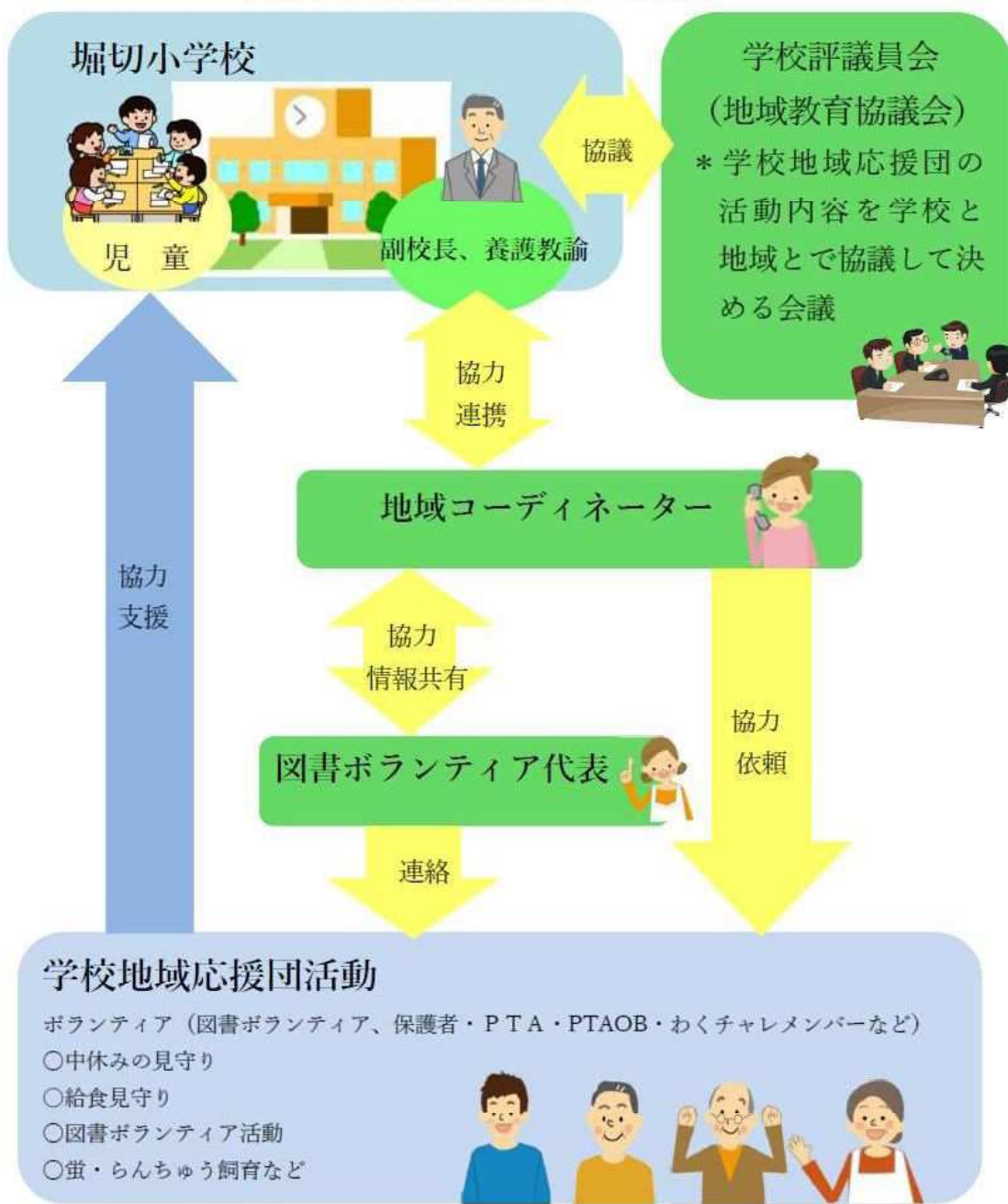
応援団活動の際に、児童が地域住民と一緒に挨拶運動を行ったことで、校外でも自然に挨拶ができるようになりました。また、地域コーディネーターとも毎月、教員や児童から活動に対する評判や情報を気軽に話し合える信頼関係を構築できています。

堀切小学校

学級数 12 クラス
児童数 317 人
ボランティア数 32 人

実施体制

堀切小学校学校地域応援団 組織図



広報活動

応援団活動に参加する保護者が増えてほしいとの思いから、昨年度より応援団の情報や募集記事を掲載したおたよりを作成しています。おたよりを作成した後は学校に内容を確認してもらい、児童を通して保護者宛ての学校おたよりとして配付しています。

また、多くの地域の人たちに活動を認知してもらうため、わくチャレメンバーの会議などでも応援団に関する情報を積極的に発信するよう努めています。

主な活動

新入生支援

① 給食見守り

4月末から5月までの約1か月間、ボランティアが1クラス2人ずつ入り、担任の先生と協力しながら児童が給食を食べるための配膳の用意や片付けのサポート（今年度中止）を行います。

今までは、保護者が活動を行っていましたが、3年前に学校からの要請を受けたことで応援団が支援を行っており、ボランティアとしてPTAのOBや地域の方々が参加しています。

活動の際の気を付けるポイントとして、入学したての慣れない環境で不安な児童を安心させるために、一人に対してできるだけ同じ人がサポートを行うようにしています。そのおかげで、児童は地域の人と知らず知らずのうちに顔見知りになることができおり、何かあったときに気軽に声をかけることができる関係性の構築に繋がっています。

参加しているボランティアからは児童一人ひとりの成長を間近で見ることができてうれしいとの声も上がっています。



② 下校サポート

入学してから2週間の期間に毎日、1年生の児童が下校するときに通学路の途中までボランティアが付き添う見守り活動を行っています。活動の際は通学路ごとに色分けされた旗を持って、児童が通学になれるように安全に気を付けながら先導を行います。

ボランティアの募集方法として、新学期の前に学校から日程の連絡があり、それをもとに地域コーディネーターがボランティアの募集を行い、日程調整を行います。あらかじめボランティアが参加する日程は決めてありますが、週ごとに参加者の予定に合わせてスケジュールを調整することで無理なく活動を続けることができます。1回の活動ごとに2～3人のPTAのOBや地域の方々が活動に参加しています。



③ 4月サポート

入学したての1年生の児童が学校生活に慣れることを目的に、各クラスにボランティアが1名ずつ入り、登校してから授業開始までの時間の見守りを行います。児童が登校してからのランドセルの片付けや授業の準備をサポートすることで児童は少しずつ学校生活での流れを覚えることができます。

活動の際は、児童が学校に来るのが楽しみになるように支援を行うことを心掛けています。

活動を通して、最初は不安で落ち着かなかった児童が徐々に自分で身の回りのことをできるようになっているなど児童の成長に繋がっています。

図書ボランティア

堀切小学校図書ボランティアでは 20 年前より「絵本の読み聞かせ」、「図書室の整備・装飾」の 2 つの活動を行っています。

読み聞かせは月に 1 回、全学年のクラスに対して行っており、ボランティアとして保護者やそのOBが約 12 名参加しています。また、月に 1～2 回行う図書室の掃除や本の整理などの整備活動は読み聞かせの活動後に引き続き、実施しています。

装飾活動ではクリスマスや季節の節目にそれに合わせて図書室の飾りつけを行うことで、児童にとって居心地の良い空間を作り上げています。

これらの活動を行う上で、地域コーディネーターと図書ボランティアの代表がメールで連絡を取り合い、月末にはお互いの活動の報告を行うことで密に情報共有や相談を行っています。



中休みの見守り

校舎裏の第 2 校庭は大人の目が届きにくい場所にあるので、中休みの 20 分の間、校庭で遊ぶ児童をボランティアが見守っています。ボランティアは 3 月下旬に話し合っただけで決めた曜日ごとの当番に従って、1 日 1 人ずつ参加しています。

活動のおかげで児童のケガの防止や不審者対策に加えて、教職員の負担軽減にも繋がっています。

年に 1 回は保護者に対してボランティアの募集を行っており、誰でも気軽に参加しやすい雰囲気づくりを心掛けて活動を行っています。

ホタル、金魚などの飼育

毎年、堀切小学校ではPTA主催でホタルを見学するイベントである「ホタルの夕べ」を開催しており、その開催に向けて行うホタルの飼育を応援団がサポートしています。

校内に設けた専用の池や4～6年生の各教室で幼虫の飼育を行う際に育て方の説明などの指導を行っており、ボランティアとして地域コーディネーターやPTA、そのOBが参加しています。

他にも校内で飼育している金魚（らんちゅう）やホタルの餌であるタニシの世話もボランティアが行っています。



専用の池を設置してホタルを育成
しています！

地域コーディネーターの声

堀切小学校では、学校地域応援団がスタートする前から、地域力があるのが誇りです。学校からサポートの要請があればすぐ動く姿勢は今も昔も変わらず、地域の方の力だと思います。

保護者の方中心で図書ボランティアを、PTAのOB中心で蛍の育成を、その他、1年生4月サポートや、金魚（らんちゅう）の育成、様々なことを楽しく活動しています。

これからも、皆様とコミュニケーションを沢山とって、無理なく楽しく活動させていただきたいと思っています。

児童への効果（学校の声）

堀切小学校の学校経営方針の柱は「協育」です。地域・保護者・学校が協力して、「チーム堀切」として地域の宝である一人ひとりの児童を大切に育てています。

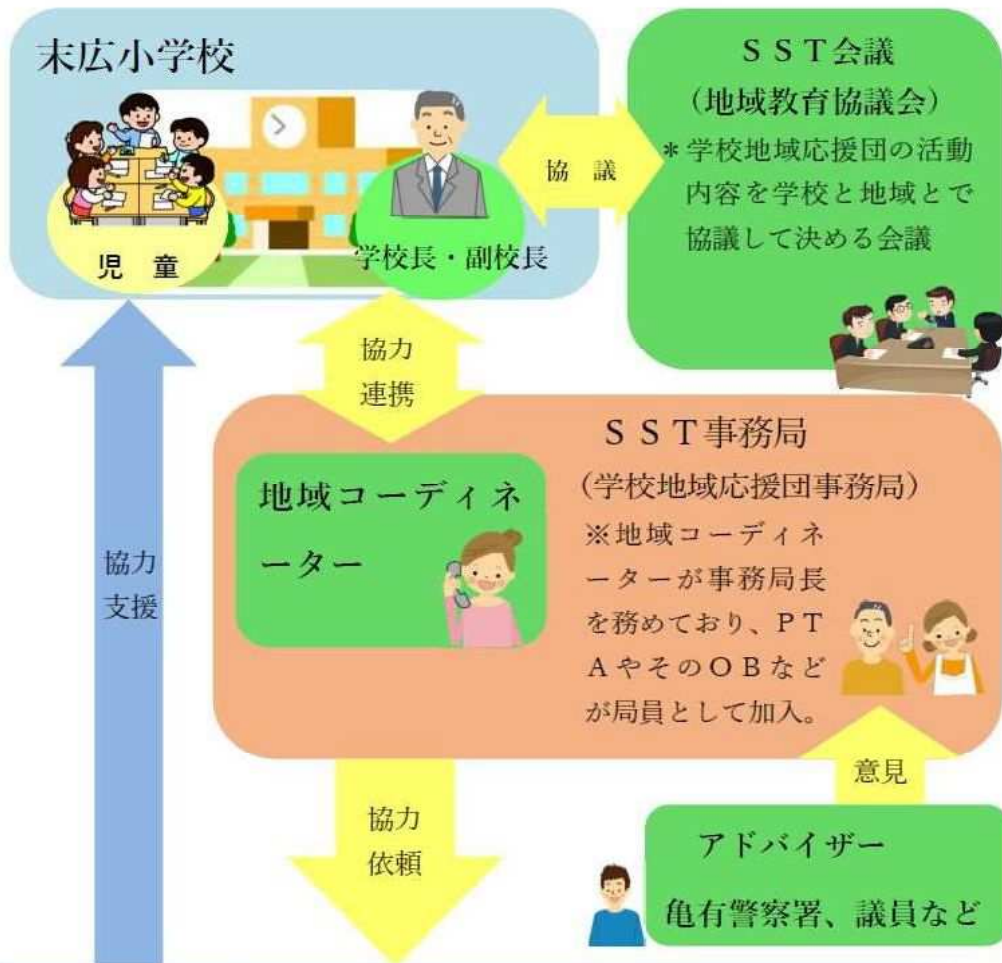
学校地域応援団の方々に「チーム堀切」をコーディネートしていただいているので、「協育」が大変充実し、児童の学び方も深まっています。

末広小学校

学級数 12 クラス
児童数 363 人
ボランティア数 180 人

実施体制

末広小学校学校地域応援団（SST） 組織図



学校地域応援団活動

ボランティア（保護者・PTA・自治会・おやじの会、わくチャレスタッフなど）

- ① 防犯部 バトロール、フィールドワークなど
- ② 学習支援部 図書ボランティア、家庭科補助、学習サポートなど
- ③ 育成部 花いっぱい運動、おやじの会、KSR（葛飾末広レインボークラブ）など

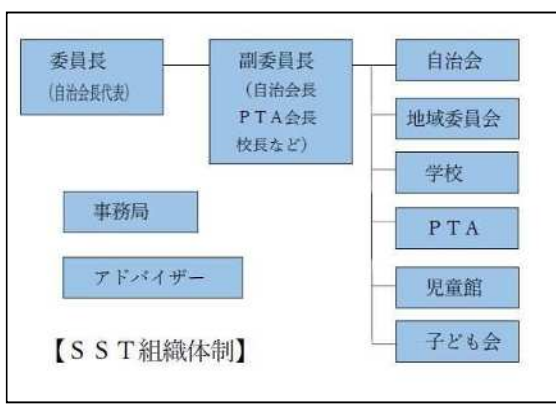
SST（末広サポートチーム）とは

SSTは平成17年より子供の安全安心を守ることを目的に防犯活動を行う組織として発足しました。その後、各団体がそれぞれで個々にしていた活動をSSTとして統合した上で、末広小学校学校地域応援団として位置づけています。

現在では、防犯活動に加え、学習の支援、心の育成という三大目標を掲げ、多くの地域住民がボランティアとして参加して、多様なボランティア活動を実施しています。

現在、SSTには小学校に関わる全団体が組織に入っており、各団体同士で密接な情報共有を行っています。

また、アドバイザーとして亀有警察署の生活安全課長や地元議員を迎え、活動に関して様々な意見を取り入れています。



広報活動

1学期に1回、SSTの周知・啓発やボランティアの募集を目的に活動やイベントの情報を載せた「がんばるんば通信」を発行し、地域の掲示板に掲載したり、PTAへ配布を行っています。

また、大きなイベントなどがある場合は号外を発行する場合もあります。



主な活動

SSTでは地域コーディネーターと事務局が窓口となり、学校からの依頼を受けて、活動を行っています。

SST内部には①子どもの安全・安心を守る防犯部、②学習をサポートする支援部、③心を育てる育成部の3つの目的を柱とした3部門に分かれており、通学路のパトロールや学習支援など児童のために多様な活動を行っています。

① 防犯部 ～子どもの安全を守る～

パトロール、フィールドワーク

例年、月～金曜日の毎日PTAの全保護者がチームを組んで通学路の放課後パトロールを行っています。今年度は新型コロナウイルスの影響で、PTA本部役員を中心に人数を縮小した上で、月2回程度実施しています。その他にも、地域住民や保護者によるGATERA（買い物しがてら、散歩しがてら）パトロール、各自治会によるパトロールを普段から行っており、日常的に子どもの安全に気を配る体制が構築されているため、子どもへの犯罪抑止に繋がっています。

また、年に1回PTAや自治会が中心にフィールドワーク（今年度中止）を行っています。子どもたちにアンケートを取り、そこで出てきた危険箇所をグループに分かれて歩きながら、原因と対策を考えます。その後、警察などと協力して改善を行います。活動がはじまってから死角のない公園や交通路が整備された結果、地域の犯罪件数が激減しました。他にも1年生には通学路を安全に登下校できるように1年生フィールドワーク（今年度中止）を行っています。



② 学習支援部 ～子どもの学習をサポート～

朝BEN、朝JUKU、寺子屋学習、夢JUKU

朝BEN（3・4年生）、朝JUKU（5・6年生）とは、朝の授業開始前に教員からの推薦を受けたり、参加を希望する3～6年生の児童を対象に、それぞれの教室に分かれて、授業の復習や苦手な科目を学習する取組です。

学習内容は参加児童に合ったものをボランティア7名と教員が相談して決めており、全ての児童が授業についていけるようになることを目標としています。ボランティアとして2～3名のわくチャレスタッフが学習の見守りやプリントの丸付けなどを行います。学習の際は些細なことでも、児童をほめるように意識したり、学期ごとに賞状の贈呈を行い、児童のやる気を引き出しています。

また、学期ごとに反省会を行ったり、活動時の児童の様子や気付いたことなどをボランティアが連絡ノートに記載した後、教員が確認してコメントを返信しています。加えて、学力向上担当の教員が校内分掌に定められており、ボランティアと連携を取っています。

以上のように、学校とボランティアの間できめ細かい情報共有や協力が図られています。

朝 BEN、朝 JUKU の際に終わらなかった課題の続きは放課後の寺小屋学習やわくチャレの時間に行う夢 JUKU の際に、同じボランティアと一緒に引き続き、取り組むことができるので学習のつまづきを克服できるような体制が整っています。

朝 BEN、朝 JUKU については、例年は週3回行っていましたが、新型コロナウイルスの影響を受けて活動を休止していました。

しかし、児童からの強い要望により、消毒や健康チェック、教室の分散などの感染症対策を行った上で、活動を再開しています。



③ 育成部 ～子どもの心を育てる～

末広小学校おやじの会との連携

SST では PTA や保護者、その OB が所属する末広小学校おやじの会とも協力して活動を行っています。

例えば、毎年一泊二日で5・6年生の参加希望者を募り、防災訓練を兼ねたお泊り会（今年度中止）を実施しています。

震災を想定して体育館でダンボールハウスを作り、非常食を食べる体験を通して、防災の知識を深めます。また、おやじの会メンバーが自身の職業や経験を生かして、模擬裁判やギター演奏などの様々な授業を行うおやじの授業（今年度中止）も行っています。



KSR（葛飾末広レインボークラブ）との連携

SST 組織の KSR と連携し、体と脳に刺激を与え、ケガの防止や運動神経を高める運動であるコーディネーショントレーニングの指導を見童に対して行っています。

かるたの会（プロジェクト K）

3月に開催されるかつしか郷土かるた大会（今年度中止）の優勝を目指して、選手養成プロジェクトとして保護者や地域の方がボランティアとして参加し、かるたの読み上げや指導を行っています。

単にかるたの練習だけではなく、挨拶や礼儀作法なども指導しており、児童の精神面への教育の一役も担っています。

※おやじの会とは？

主に児童・生徒の父親を中心とした PTA 活動またはそれに準じたボランティア活動を行う地域組織です。区内では一部の学校に設置されており、学校地域応援団と協力して活動を行う学校もあります。

※KSR(葛飾末広レインボークラブ)とは？

末広小学校を中心に、近隣の小学校、幼稚園、保育園にてコーディネーショントレーニングの普及活動をしている地域グループです。

SST 新型コロナウイルス感染防止対策（プロテクト S）

地域コーディネーターや SST 事務局が中心となり、新型コロナウイルス感染症対策として、プロテクト S を立ち上げました。

学校長や養護教諭と相談し、感染症対策に必要なアルコールスプレーや掃除用具などの物品を SST 加入団体である PTA や自治会からの賛助金を利用して購入し、学校に寄贈しました。

学校の衛生用品や掃除用具が充実した結果、児童への感染予防や教員の負担の軽減に繋がっています。

児童への効果（学校の声）

応援団活動を通して、児童とボランティアとの間で良好な関係が築かれており、学習支援などのサポートを通して、児童の自己肯定感や学力の向上に繋がっています。

また、コーディネーターを中心に強い信頼関係の下、学校との連携体制も構築されており、日頃から児童の頑張りや成果を一緒に共有し、チームとして思いを一つにすることができています。

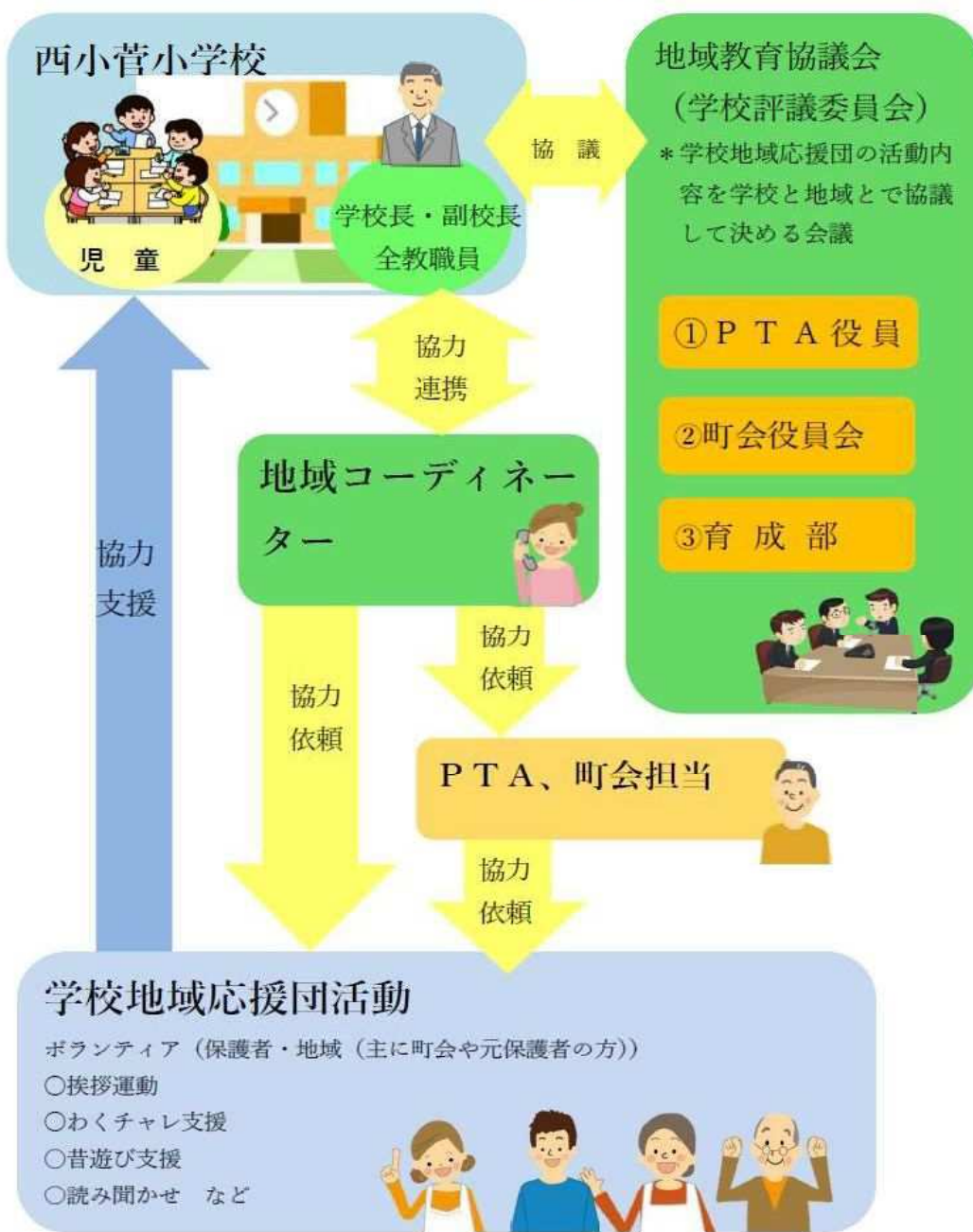
今年度、開始したプロテクト S をはじめ、幅広い分野で教育活動に貢献していただいております、教職員一同強い感謝の気持ちを抱いています。

西小菅小学校

学級数 10 クラス
 児童数 243 人
 ボランティア数 50 人

実施体制

西小菅小学校 学校地域応援団 組織図



① 学校地域応援団事業について

② 学校地域応援団事業実施状況

③ 【特集】学校の活動紹介

西小菅小学校

④ 学校地域応援団による活動概要

学校別

地域教育協議会

西小菅小学校では、地域コーディネーターや学校管理職、PTA役員、町会の方々などを構成員とする、①PTA役員会、②町会役員会、③学校評議員会の3つの会議体が地域教育協議会の役割を担っています。

会議では主に学校地域応援団活動の活動計画や活動後の報告を行っており、応援団活動の周知・啓発及び情報共有の場にもなっています。

主な活動

西小菅小学校学校地域応援団では、「挨拶運動」「放課後学習支援」「読み聞かせ」などの活動を行っており、「みまもり隊」のように、一部の活動では近隣の学校地域応援団と協力関係を築いています。

学校の窓口は管理職が担っており、地域コーディネーターがわくチャレスタッフを務め、頻繁に学校へ足を運んでいることもあり、密接な情報共有や打ち合わせができる環境が整っています。

広報活動として、応援団に関する情報は学校及び町会のおたよりに掲載し、保護者や地域住民に配布することで活動の周知・啓発やボランティアの募集を行っています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響でいくつかの活動が中止になったり、規模を縮小することになりましたが、安全性を重視した上で、できる活動とできない活動を取捨選択し、感染症対策として教室の消毒や換気、手洗いなどを児童とボランティアの両方が念入りに行った上で活動を実施しています。

挨拶運動・見守り隊

毎月、葛飾教育の日にPTAや町会の方々がボランティアとして約20名参加して、教職員と一緒に校門と通学路の2箇所に分かれて、挨拶運動を行っています。(今年度中止)

今年度は、新型コロナウイルスの影響で大勢で集まるのが難しかったので、例年のような活動形態を変更して、各家庭の玄関の前で挨拶運動を行いました。

活動の効果として、挨拶運動を継続的に行うことで、今までしっかり挨拶ができなかった児童が自発的に挨拶ができるようになったり、ボランティアの参加者の保護者にとっては自分の子供以外の児童と接する良い機会になっています。

また、こすげ小学校及び綾瀬中学校の応援団と協力してみまもり隊を立ち上げており、登下校の見守りなどの活動を行っています。綾瀬中学校の地域コーディネーターが作成したチラシを配布することで活動の周知や啓発を行っています。地域で連携して子供を犯罪などから守る体制が構築されています。



見守り活動を行う際は、この腕章を付けています。



わくチャレでの学習支援

応援団設立当初から、わくチャレの時間中に、町会や卒業生の保護者などのスタッフが参加して、児童の宿題や勉強の見守りを行います。

今年度は感染症対策として密を避けるために、児童の参加人数を制限しながら実施しています。



昔遊び支援

学習支援の一環として、年に1～2回、学校地域応援団の方々が昔遊び（けん玉、あやとり、お手玉、めんこなど）を児童に教えています。（今年度中止）活動の際に使うお手玉などは町会の方が作成しています。

読み聞かせ

6月から月に2回程度、全学年の児童を対象に朝学習として15分程度、読み聞かせを行っています。ボランティアとして町会の方や保護者が10人程度参加しています。活動を通して、児童に人の話を静かに聞く力が養われています。

今後は感染症対策としてリモートでの開催も検討しています。

学校地域応援団の特徴

西小菅小学校学校地域応援団では町会の結びつきが強い土地柄もあって、「地域で子どもを育てる」というモットーをもとに、多くの住民や保護者たちが自分の子ども以外の子どもとも関わろうとする気持ちが強いです。

また、子どもが入学と同時に保護者は応援団のメンバーとして加入できるため活動に参加しやすい体制を構築しています。

今後も応援団活動を通して、児童の社会性や内面の成長に繋げていきたいと考えています。



西小菅小学校マスコット
こすげどん

学校の声

地域の方々には以前より、花壇の整備や挨拶運動、読み聞かせなどの幅広い分野で活動を行っていただいています。

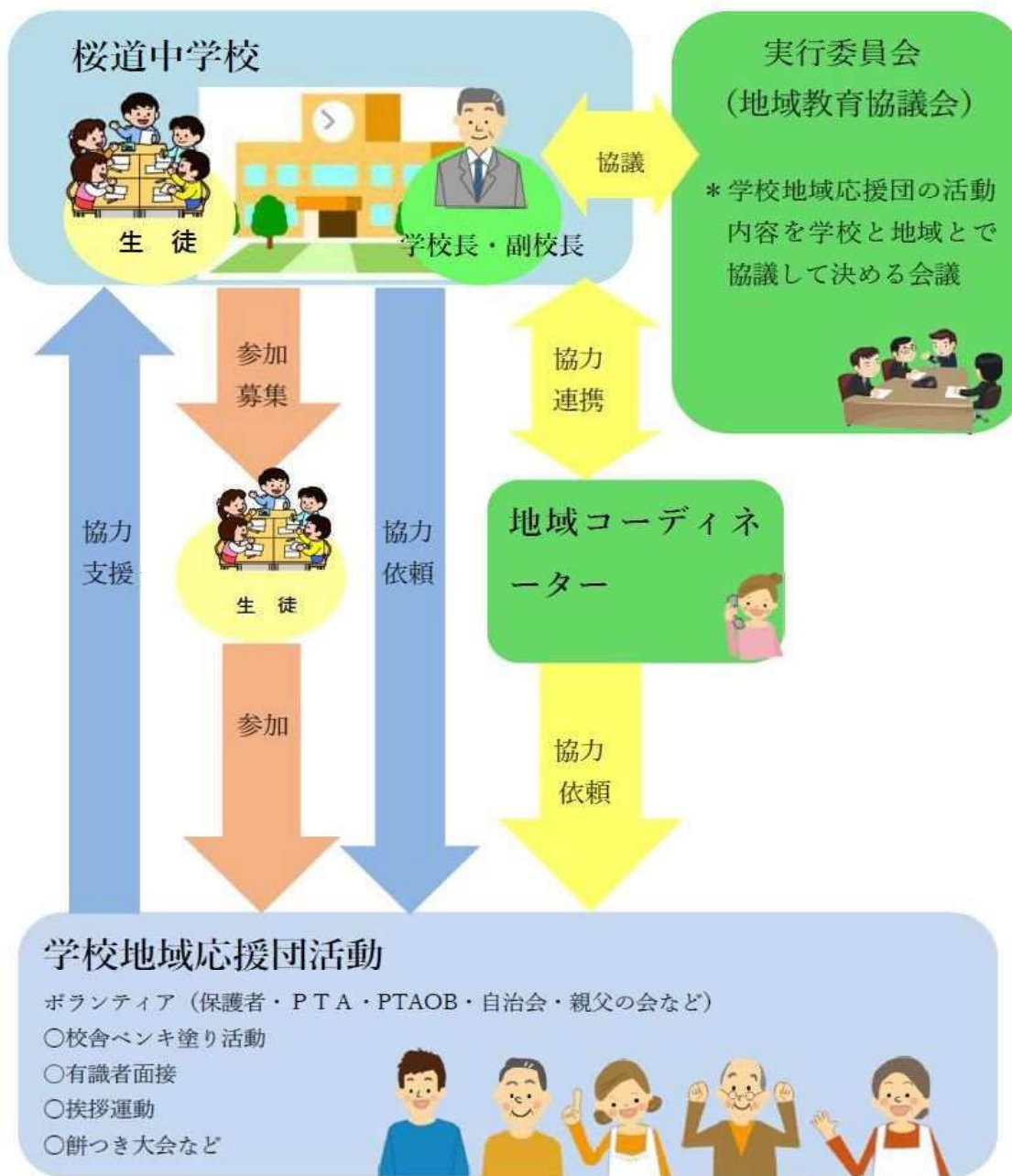
昨年度からは新型コロナウイルスの影響や校舎改築の影響で多くの活動が中止になってしまいましたが、その中でもわくチャレボランティアを中心に児童のためにできる限りの活動を行っていただきました。また、応援団活動を通して、地域と学校の間でより良い関係を築けており、子どもたちのために密接な連携をとる体制が整っています。日々、学校にご協力いただいている地域やボランティアの方々には本当に感謝しています。

桜道中学校

学級数 13 クラス
 児童数 393 人
 ボランティア数 100 人

実施体制

桜道中学校学校地域応援団 組織図



①学校地域応援団事業
 について

②学校地域応援団事業
 実施状況

③【特集】学校地域応援
 団の活動紹介

桜道中学校

④学校地域応援団によ
 る活動概要

学校別

実行委員会（地域教育協議会）

毎年、2回開催される実行委員会が地域教育協議会の役割を担っています。地域コーディネーターやPTA、教職員など30名ほどが参加して、応援団活動に関する年度計画や活動実績などについて報告しており、地域と学校の情報共有の場にもなっています。

また、会議に参加できなかった方にも、会議資料と一緒に意見や質問などが記載できる要望書を配付しており、地域の声を積極的に取り入れるように意識しています。

広報活動

桜道中学校ホームページ内において、ボランティア活動を紹介するページを作成しており、その中で定期的実施した活動の様子を写真とともに掲載しています。また、毎月発行している学校だよりの中でも応援団活動について掲載しており、地域住民や保護者に配布しています。



学校だより（上）及びホームページ（右）による活動紹介



主な活動

桜道中学校では、生徒が学校で行っているボランティア活動をより地域に知ってもらいたいという思いや、生徒と保護者やPTAと一緒にいる校舎内のペンキ塗り活動がきっかけとなり、学校地域応援団が設立しました。

学校の窓口は管理職が担っており、活動を行う際は、地域コーディネーターまたは学校から実行委員会や学校だよりを通じて、地域の方に連絡をすることでボランティアを募集しています。

現在では、ペンキ塗り活動や挨拶運動、有識者面接などの活動が行われています。

校舎内ペンキ塗りボランティア

毎年、夏休みの最初の土曜日に1～3年生の生徒が70名ほど参加して、各学年で持ち場を分担しながら校舎内の廊下や階段の壁にペンキ塗りを行います。(今年度中止) 生徒と一緒にボランティアとして保護者やPTA、親父の会のメンバーが参加して、作業や見守りなどのサポートを行います。活動後には生徒にスイカをふるまっており、生徒にとって思い出づくりの時間にもなっています。

9年前に桜道中学校学校地域応援団設立のきっかけともなった活動であり、生徒に対して学校を大事にする気持ちを育成すると共に、普段経験できないことができる貴重な体験の場になっています。

活動の際は、地域コーディネーターが電話やLINEで連絡し、ボランティアの募集を行うと共に、学校も学校だよりを作成し、生徒を通じて保護者に周知を行います。

参加したボランティアからは作業を通して、生徒と会話したり、接することで生徒の様子が分かって良かったとの声が挙がっています。



- ・校舎がきれいになってうれしかった！
- ・学校を大切にすることができました！

- ・活動後にスイカをみんなで食べたのが思い出！
- ・地域の方と交流できて良かったです！



有識者面接

年に1回、葛飾教育の日に青少年委員や町会の方など約50名が面接官として参加し、3年生の入試対策として面接練習を行っています。生徒一人あたり20分間ほど2～3名のボランティアが面接を担当し、面接後は良かった点を積極的に褒めることを意識しながらアドバイスをを行います。

生徒は緊張感をもって、本番さながらの面接練習ができるため、良い経験になっており、地域の方にとっても生徒の成長を身近に感じることができる場になっています。

活動後はボランティアに対してアンケートを取り、生徒について気付いたことや改善点を教員と情報共有しています。



挨拶運動

例年、葛飾教育の日にPTAやOB、青少年委員、民生委員が中心となり、生徒と一緒に校門の前で挨拶運動を行います。

挨拶運動を行うことにより、地域と生徒とのコミュニケーションの活性化を図っており、継続的に挨拶運動を行うことで、今まで挨拶をしなかった生徒が大きな声で挨拶をするようになるなどの効果も表れています。

地域の方にとっても、挨拶を通して生徒と接する機会になっており、挨拶運動に積極的に参加したいと考える方が多くいます。

今年度は、5～6人の学校評議員で規模を縮小して実施しました。



桜道中学校親父の会との連携

桜道中学校地域応援団では親父の会と連携したボランティア活動も盛んに行っています。

毎年、冬休みの期間中には保護者や OB などのボランティアと協力して餅つき体験学習を行います。(今年度中止)

その他にも、保護者と生徒が地域で清掃活動を行うクリーン作戦の際にも応援団と連携して活動支援を行っています。



学校地域応援団の特徴

桜道中学校では自分のいいところを見つけて伸ばし、人や地域に対して社会奉仕をすることを意味する「何かで人より 何かで人に」を生徒行動目標に定めており、生徒によるボランティア活動の参加が盛んに行われています。多くの活動において、生徒と応援団ボランティアと一緒に活動しており、生徒を中心に応援団活動が展開されています。

活動についての打合せや細かい連絡はコーディネーターと校長が中心に行い、副校長がその補佐を行っています。時には、教員とも直接情報の交換・共有を行っており、学校との密接な連絡体制が構築されています。その他にもコーディネーターが、PTA や学校評議員、地域の小学校関係者などの応援団に関わる様々な方々と情報共有を行うことで連携を図っています。

例えば、PTA とはコーディネーターが常任委員会へ出席したり、活動の相談にのることで、応援団と PTA がスムーズに連携や協力できる関係性を築いています。



児童への効果（学校の声）

ボランティア活動の参加募集を行うと、以前と比べて多くの生徒が参加を希望するなど、応援団活動を通して、生徒の主体性が確実に養われています。

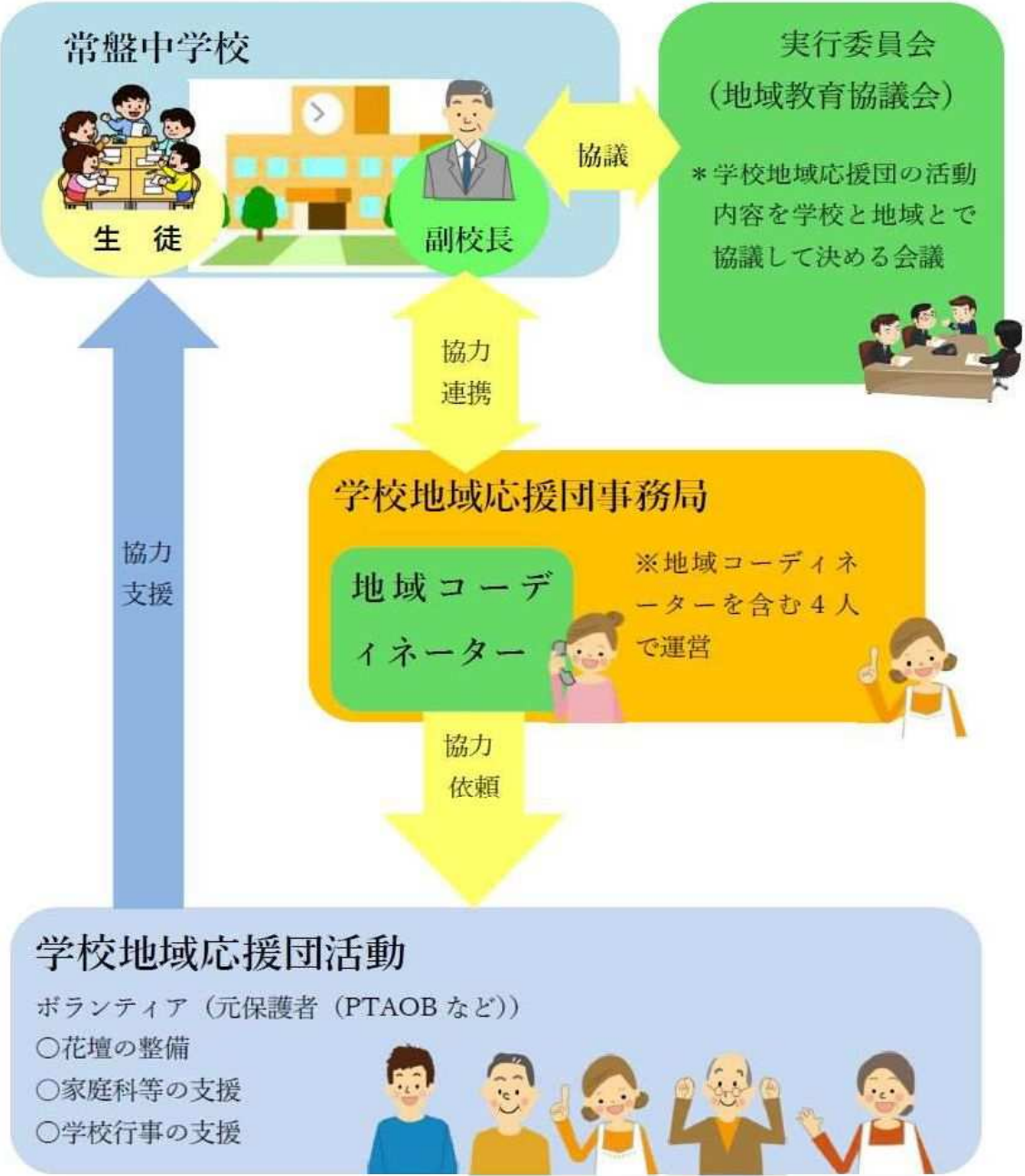
また、応援団活動を通して、生徒の心に地域の役に立てる実感がわいてくると同時に地域への感謝の気持ちが芽生えています。

常盤中学校

学級数 13 クラス
生徒数 451 人
ボランティア数 35 人

実施体制

常盤中学校学校地域応援団 組織図



実行委員会（地域教育協議会）

毎年1回、地域教育協議会を開催しています。地域コーディネーターやP T A、学校評議員など約20名ほどが参加して、応援団活動に関する年度計画や活動実績などについて報告しており、地域の方々から様々な意見を聞くことができます。



広報活動

応援団活動の写真や一言などを入れ、活動の様子を掲載した「The ときわ学校地域応援団だより」を作成しています。地域コーディネーターから事務局内の担当者へ依頼し作成しています。

「The ときわ学校地域応援団だより」は、学校地域応援団のメンバー、地区委員会に配付し、学校内や町会の掲示板に掲示することで周知を図っています。



主な活動

常盤中学校では学校地域応援団発足に伴い、当時の校長が生徒たちのためにどのような活動があると良いかを考え、学校地域応援団活動による活動が始まりました。

学校の窓口は副校長が担っており、活動を行う際は、地域コーディネーターから直接LINEでボランティアの方々に連絡をし、調整しています。

現在では、花壇の整備、家庭科等の支援、学校行事の支援、書初め練習会などの活動が行われています。

①学校地域応援団事業
について

②学校地域応援団事業
実施状況

③【特集】
団の活動紹介
学校地域応援

常盤中学校

④学校地域応援団による
活動概要

学校別

花壇の整備

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響による計画停電によりエアコンが使えないことがあり、当時の校長が、グリーンカーテンができないかと考え、学校地域応援団に話をもち掛けたことでそこで、グリーンカーテンの作成を開始し、その後花壇の整備も開始することとなり、現在では常盤中学校学校地域応援団の中心的な活動となっています。

花壇の整備は、常盤中学校及びときわ花小路でおこなっており、毎週水曜日に手入れを 4～5 人のボランティアで行っています。活動の際は、地域コーディネーターがボランティアの方へ LINE で連絡し、参加の可否について確認しています。

なお、年 4 回ある、植え替えの時期は生徒（多いときは 30～40 人）も参加しています。



家庭科等の支援

先生から家庭科のミシン授業の際に一緒に生徒を見守っていただけの方がいらっしゃるとありがたいとの声があり、学校地域応援団によるミシンや調理の際の生徒の見守りを始めることとなりました。

ミシン授業の支援の際には、4 人のボランティアの方に協力していただいております、2 人で 2 クラスを担当し、計 4 クラス分の見守りを行っています。

調理実習の支援の際には、先生の隣で材料の出し入れ等の補助を行っています。

これらの支援を行う際には、約1か月前に副校長から地域コーディネーターに連絡があり、授業の日時を教えてください。この連絡を受けて地域コーディネーターからボランティアの方へLINEで連絡し、参加の可否を取りまとめています。



学校行事の支援（運動会の駐輪場整理）

運動会の際の駐輪場の整理を年に1回行っています。この活動は、広くボランティアとして参加いただける方を募っています。

例年、約10人の方にご協力いただいております。地域コーディネーターからLINEなどでボランティアの方へ広く募集し、参加していただく方の人数を時間ごとにばらつきがでないように、参加者の方々の時間を調整しています。当日整理していただく場所については、参加していただくボランティアの方々の中で相談して決めてもらっています。

なお、この活動を行うにあたっては、運動会の開催方法や駐輪場所・駐輪にあたってのルールの確認など学校と調整が必要なことから、事前に学校と打合せを行っています。

書初め練習会

例年、12月下旬に地域の書道の先生をお招きして、年末恒例の書き初め練習会を開催しています。1年生から3年生の約10人の生徒が参加しており、みんな集中して取り組んでいます。

参加した生徒は、先生から名前のお手本を書いてもらうことができるため、「参加して良かった」という感想をいただいています。



学校地域応援団の特徴

常盤中学校の学校地域応援団は、同年代の女性を中心となって、花壇の整備や家庭科の支援に参加していることから、活動を行う際に一体感があり、皆さんが気軽に活動に参加できるように心掛けています。また、同年代の方が多くことから円滑な調整を行うことができます。

学校外にあるときわ花小路花壇の整備では、花いっぱい運動による活動も積極的に行っているなど、他事業との連携を図っています。

また、近隣の北野小学校の学校地域応援団が行う金町公園での花壇の整備を行う際は、常盤中学校の学校地域応援団も協力するなど、他校との交流も行っています。

生徒への効果（学校の声）

家庭科支援などの応援団活動を通して、生徒の学習への理解が深まるとともに、応援団の方々に褒めてもらうことで生徒の自己肯定感の向上にも繋がっています。

また、ボランティア部を設置し、部員以外の生徒にもボランティア活動への参加を呼び掛けているので、生徒が定期的に応援団活動に参加できる体制が整っています。応援団活動を通して、生徒たちが地域への理解を深めるよう工夫しています。